

ニ、脂肪内包水症

発病例は少ないが、足基部の脂肪部に水（淡黄緑色、悪臭がある）がたまり足が動かなくなる。

以上病徴によりおおまかにみてきたが、その他に腹部の赤班、咬傷、スレ、失明などもあった。また、池変先直後のへい死も多かった。いずれも原因及び対策は明らかでなく、疾病症状も合併症が多く見られた。スッポンのへい死に至る経過は、健康の時はほとんど水中に潜り、水上に上がっているものでも人影を見るとすばやく水中に戻る。人間が近づいても餌場や池の縁などの水上に居るスッポンはほとんどなんらかの疾病症状を有し、元気がなく摂餌も行なわず、それらのほとんどが死に至る。

今後も、疾病の実態、池の環境、病亀の外部及び病理学的研究、病源体の究明、疾病対策などについて、継続して研究を行なう必要がある。